『ポチの告白』ストーリー&キャスト

ストーリー

交番勤務の「タケハチ」こと竹田八生はまじめで優しい警察官。その働きぶりが刑事課長・三枝良明の目にとまり、同課へ抜擢される。

日々、タケハチが刑事の使命感に燃えて仕事をしていると、覚せい剤中毒の成川清が民家2階のベランダで包丁を振りまわし、女性を人質に取る事件が発生する。成川は警察と組んで覚せい剤を売りさばいていたが、裏切られたため、やけを起こしたのだ。三枝の指示でタケハチは屋根の上へ。捜査員の1人が覚せい剤をちらつかせて成川の気を引くと、タケハチはベランダに飛び降り、人質を解放して、成川を逮捕した。

そこに居合わせた飲食店経営者・草間力男は初対面の新聞記者・北村耕司に写真を撮らせる。後日、草間は、警察官・山崎一に違法捜査の証拠の写真を買い取らせようとするが、逆に恐喝容疑で逮捕される。身元引受人の北村のおかげで釈放された草間だったが、成川が拘置所

で変死したことを知り、警察への疑惑をふくらませていく。

数日後、警察が面倒を見る暴力団が拳銃の大きな取り引きを行うという話を聞きつけ、草間は深夜の埠頭に北村を呼び出す。２人が物陰からビデオカメラで撮影するなか、暴力団と中国マフィアが取り引きを始めると、突然、彼らはライトで照らし出され、パトカー数台と捜査員数十人に取り囲まれた。

「警察だ。拳銃４０２丁、実包２７２５発、銃刀法違反で全員、現行犯逮捕だ」

三枝がマイクで告げ、捜査員が容疑者へ殺到。次々と容疑者が取り押さえられるなか、取り引きを主導していた日本人の男が、捜査員に連れ出され、タケハチが運転するセダンで走り去った。その男は警察官の兼頭洋一。暴力団と組み、拳銃や薬物の密輸、売買で儲けながら、ときには彼らをはめて手柄をたてていた。

翌日、警察の記者クラブでは、広報担当警察官・大野四郎が得意顔で広報文を配り、記者たちが驚嘆の声をあ

げていた。一方、草間は、北村が勤務する新聞社を訪れ、デスクに自分たちが撮影した映像を見せて、「この拳銃押収は完全なやらせ」と説明する。しかし、デスクは「そんなこと、今さらニュースにして、どうなるのよ」と取り合わない。草間が怒って退席すると、北村の後輩記者・小島は大野に密告の電話を入れた。

草間の動きを知り、三枝はタケハチと山崎に「善処」するよう命令する。タケハチは草間を口頭で脅すが、山崎は手緩いと感じ、暴力団に草間を襲撃させる。草間が全治3カ月の重傷という報告を聞き、喜色満面の三枝。しかし、タケハチは罪悪感を覚えていた。

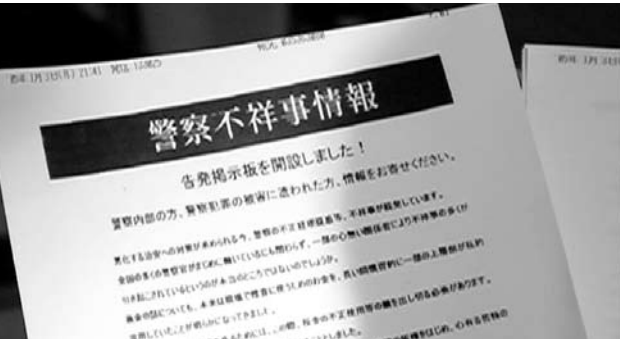
5年後。

タケハチは組織犯罪対策課長に昇進していた。中国人を取り調べ室で痛めつけてカネを巻き上げたり、暴力団と組んで薬物を売買したり、偽造領収書で裏ガネをつくったりと、かつてのまじめさと優しさはない。暴力団からあてがわれた16歳の愛人とラブホテルで寝ていると、不意に携帯電話が鳴る。管内で射殺体が発見されたのだ。

まもなく被害者は、あの兼頭と判明する。兼頭殺害で5年前の拳銃のやらせ押収がほじくり返されることを恐れるタケハチ。その不安は的中する。

5年間、姿をくらましていた草間が北村を訪ねてくる。草間は捲土重来を期し、兼頭殺害を調べていた。再び2人はコンビを組む。タケハチと山崎は、中国マフィアが5年前の拳銃のやらせ押収に対する報復で兼頭を殺害したとみていた。山崎は韓国マフィアに、兼頭殺害の犯人の身代わりを用意することと、草間を襲撃することを依頼し、事態の収拾を図る。しかし、兼頭殺害は韓国マフィアの仕業だった。犯罪の黙認とひきかえに法外なカネや見返りを要求する警察に怒りを募らせていたのだ。韓国マフィアの協力を得て、草間と北村は、警察の犯罪の全貌をつかむ。

そんななか、小島から大野へ、北村のパソコンに保存されている「警察不祥事情報」がＦＡＸされる。警察の犯罪の数々が記された文書を見て、警察署長に昇進していた三枝は、タケハチに「解決」を指示しつつ、トカゲ



のしっぽ切りの準備を進める。

警察から圧力を受けた新聞社は、北村に記者クラブの記者証の返還を命じる。北村は憤慨し、デスクに記者証と社員証を叩きつけて、退職。草間とともにインターネットで警察の犯罪を追及しはじめた。その内容が具体的で無視できなくなり、マスコミが取材に動くと、警察上層部は兼頭殺害を含む犯罪の数々をタケハチにかぶせて逮捕する。

タケハチは初公判で、すべてを個人犯罪とする起訴事実を認める。それに異を唱え、警察の組織犯罪を追及するマスコミなど存在しない。草間と北村は日本外国特派員協会で記者会見を開き、「警察は日本最大の暴力団」「日本語の『ジャーナリスト』の意味は『飼い犬』」などと痛烈に批判する。

次の公判で、裁判長・大坪は外国特派員を意識して、タケハチが意見を陳述する機会を与える。タケハチが真実を暴露することはないとたかをくくる傍聴席の山崎と三枝。そんな2人をふり返って見つめたあと、タケハチ

は「言わなくてはならないことがあります」と発言しはじめた。すると、大坪は「被告人の発言を禁じます」「退廷してください」とタケハチの口を封じた。大坪は三枝にスキャンダルを握られ、脅されていたのだ。

拘置所の独房に戻されたタケハチは、1人で意見陳述を始める。

「警察というところは、人間でいることを許されないんです」

「だって私ら、権力の犬、ポチだからです」

「何をやっても大丈夫だからって、部長や署長に言われたんだ」

「私らポチなんか批判して、何が変わるっていうんですか」

「全国警察官27万のポチの、俺なんか、たった1匹なんだ」

しかし、「ポチの告白」は拘置所の廊下にむなしく響くだけだった。

キャスト

竹田八生
（組織犯罪対策課長）
菅田俊

山崎一
（竹田の後輩の警察官）
野村宏伸

草間力男
（飲食店経営者）
川本淳市

北村耕司
（新聞記者）
井田國彦

三枝良明
（警察署長）
出光元

竹田千代子
（竹田の妻）
井上晴美

奈良憲治
（巡査長）
三浦清光

岸川誠
（巡査）
舩木壱輝

国井六法
（巡査）
新井貴淑

大野四郎
（広報担当警察官）
水上竜士

兼頭洋一
（銃器薬物対策課警部補）
岡村洋一

千田実
（新聞社デスク）
吉田祐健

小島
（北村の後輩の新聞記者）
塚本博一

成川清
（覚せい剤密売人）
藤村忠生

大坪
（裁判長）
宮崎学